

秋葉神社 沿革史

小林市西町区岡原
境内二反一畝十三歩

祭神 火産霊神

摂社

- | | |
|--------|--------|
| ①霧島大権現 | (霧辺大神) |
| ②大山紙神 | (山の神) |
| ③大巳貴神 | (田の神) |
| ④保食神 | (馬頭観音) |
| ⑤饒速目神 | (薬師如来) |
| ⑥少参名神 | (堅師観音) |

例祭 7月中旬(日曜日)

享保元年(西暦1716年9月26日)新燃岳が爆発し社殿は消失し降灰で埋没したが、奇しくも御神体一基が如然と露出していたので全基発掘された。修験僧恵法印隆盛という山伏らが柴神輿を作りて神体を小林細野の岡原(現在 忠霊塔の南秋葉神社)の辺に仮殿を建て安置した。後日、修験僧恵法印隆盛が主となり、この地に秋葉神社の勧進を遂げたと言われている。数度に亘る霧島山の噴火は、神々の怒りであると信じられ、神の怒りをし鎮め一般大衆の生命財産の救済を願ったことであつた。現在の社殿は昭和26年5月8日に完成し遷座申し上げた。

秋葉神社沿革史より抜粋